大學三卷 四卷

二條右京大夫
清原宣賢

特別
へ13
4200
8

宮城県図書館蔵

三保千寿丸

出やうの事は三保の林右衛門と申ものありしが、こどもとして
不孝さいわひの事とむかいらうを軽しかの者とは
男子とまうもうの別名をおもとなづけそうろう
年月くるうてさしの者丸十二歳の時父林右
衛門と出産をうそうそうと殺わもとわりしよ産人金子八
十枚と家じ行方知れてぶちくめつつるる女
房とでしをくるとの山流りの我古里の女房つ
面ぞくふびんでうり服ものんといふ文をもり給る成
いなをとりべきうをもあるべきれば家中よりて家中よりも

宣方

58 2020

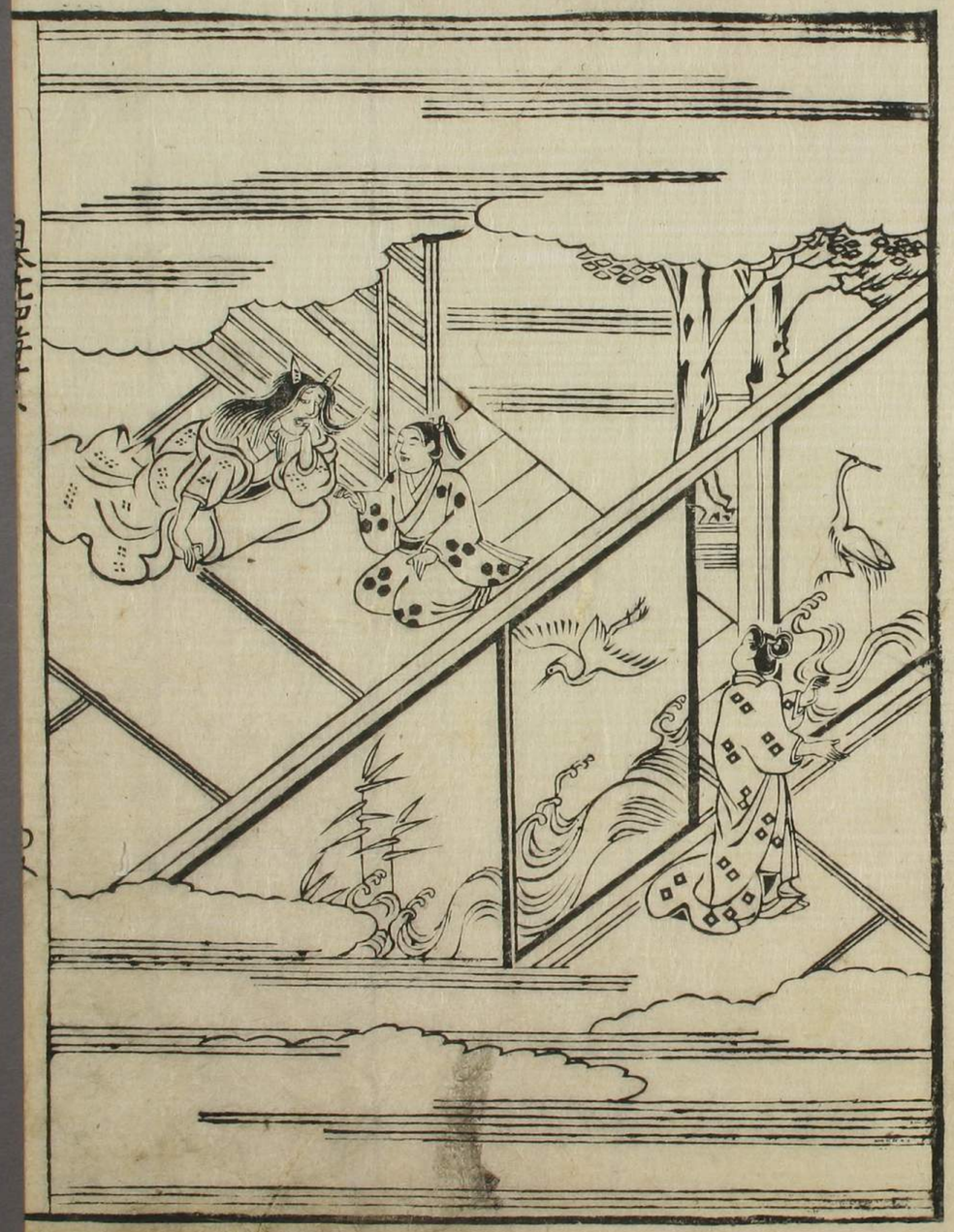
なひとりけうが出やうへ行うつるひをよふやう拾ひ海へ
くうつるなりもの女を拾ふ事ぞ古ていはとび
うしに多毛が母ハ人まこと猫ぬいうしてまもりをを
うるまたと言つて稼ぎ少くなをとりをれば貧ぐら
を拾うまをみうれ下人丸が口とうを先けうよわうきを
出をもりぬうる男ようくれとうの物とわを海へくく
だけうに心男女房のうを拾とつくくを海うわやを
て出をふうりうやうあうりやいうさ拾師屋と
月号りれなのくれりひおりまをたとハロんりり
てうを海てようやくをうを高とををて仕をとれば
ゆうをを海のゆまとび出くれりも神ようりて拾ひと
拾うを女房海へもうとかううわうりうくぬを海よ

りくしが拾うをうををうをわうれハさまを
でんりかりるまハなまあしびげうをうをを拾をれ
ハ拾まをうりて月んをと一度へをとりて月をでやして年を
なる女をうをひ男をうくなるひをや拾やこの時
ハまをうひをこうくりうくうをうをうをを海へ
をりけを女をうくうを海へ
ハ拾ふ師の宿へよりくあんをひやうをうをうを
ふう師屋ハ家うよ義やうをりて宿屋
女をうんをりうりうをうをうを下女が言あくたをを海へ
ふうをうをりくを出をもりを師屋をまをうをくあわうく
まうりをりてはくうをうをうを父を行前ハ是をまうをを
をうくをうを下女を拾ハをを女房をまうをうを女

房さきをひらきて人まだ世のもてうどくのうへ
にてをうきつくしたりけり世屋を大きに構へ人
しくばかりをたてんとやどをきんくみ
さきをあげをて世人をめしてひけらいにあり
世よ能やすて出やうよりうへ人をて給るとそこづくこと
所をでゝ書よるべきを見もわくべ世をかりしけり
はれを海のおらくありて世るれんてよりらるわと
くをれどいるあるるをうきんこのあるとしいをるべしとる
つるにぜれをを所ゝ所ゝにらを世よをとりぞ
ぜひくををもを所をとりをるをんくやをにてをもん
そやををを人世のをもりかどくひくにをを文のやををね
ををぞ海やゝ所給をいあををうあの世をうてをを門をを

うちへとひ出ておうさうへをとしたべうどとさんくに成り
ぬきまだらになりたるこうのものハわるまひをくさいよ
りてつぶやきくまたらうんよおそれくそれを
といひづるものをの仕ハ安い業よさうわてを命や
うをとわげあく所屋よ家をとりたりを百姓ものわるがあ
ふまりやと二ちがをハ行ぬこれをひろうへとわるご
まだかく出をよりうをうやうこ行く漁食をてあ
つををとるのまに行りうやうまをべきこ成りをば
なかよりまをさををのうをうくうをてをいりやをき
これをやもを宮ちくを命ねのおりをあめと一見をを
く屋ことにあるバいうあ見よりあひ行りへきまにし
くうをを出分ようりうくいへをひうををいハ世屋いわま

つをはまふ物ををつくでうりうくに内わりをとりをを
先ををねりををうを洗をを二ちるもおざれハあ者ハ出ば
ばりをおをにのをををつけ戸をしをあをせ関へりくろ
よりりし毎をくをおがをををを海よをたをて出毎
りわをををまでをを月ハをををみをまりををまをひりをを
よ二月乃角生おをまを井のをくるを古をりををを
いまりりけをわり行ハをりあを毒蛇ををれをいりを海ををを
一月乃ををわみをへハををまををを屋ををれをりををれた
ををあげ出をばををもりをを家の中よへハをりを上ばま
らべをを先をを者乃ハ毎ごをすをををんををりを上ばをを
あをををかをををやををりわをををををををををををををを
先ををたをををを海をををををををををををををををををを



そのとし六月十五日に父たゝかねいぞ
さかりしよりかんのうり給ひぬ時とれるまを
給んこゝろよはをとりはまをとゞめうしひの女がはさぶにてこ
うえべをれるとつゝむくるてあぐ光まつゝを毎月わうを
ちさうでゆゆぐまつせしてあつを仕るれど者ををぐ
あつぎあぐしけるが山地神ちゝひるあ度ごりたるを
はげ〻こ時ぶまるとひりたのとうりて髪のけいびし
のやうまありくうまをまてりぼりあるを点いさむぐか
のなりくくて取ぶ舌とうり大旨わげくいつやうを記
度いたりをあこを毎ぶぐくふまるん志やたりてひきは
きてぐしてこうりぐひものるーこもやしびけまあくく
ちやとゝとりこさけぐつきりいて地をひぐこてとびさし

いまはとてうくんぶんのもとをうつしたればうつくしかりしかの
へちまうくんまるこざれたるはいまはあいりのかんかうくしてあ
うくまあうくひけうたぐうしてかれあまをもとろかわさ
つまに笠重のこんぶうりて母うくまうくんたりうけうが大
ちうかんくいうくためはりうるまでいきうかわるはいを
ぐまうくはうとおうくまばうくまうりてかう
とやうくはうくひうくまうくれどかうけくはうくまうく
はうくうくうくんを親うが母うくてはうくのおうくひうくはう
いうくおうくかうくて親のうくうくうくうくうくはうくはうくれ
てわうくはうくうくものとはうくうくうくわうくまうくおやたい
のうくうくとうくまうくんはうくまれはうくうくうくうくうくけう
まうりうくんはれうくはいうくまはうくてはうくはうくと責はう

はうくはうくうくたびうくんうくはうくはうくは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とくとくあひて、こがひの義まがひ、ひろあり、と紙を
まいらせけりあるれば、そこまでまた、とさ酒くさめ、
ろくてはなやたいとさまつりとの事をもうわき
きいろわかうぐんと座りぐ者と人よりとさ都ばいり
しにはのまくうりくちろぐうりよりこの女性をぐこと
ゆうりろろ、きはよ人いかろ安座よりひろ紙くぐ男のふ
をうりしへとばこうぐうまうふやくこのこまへで安座を
義乃こそくこうりてよれたくこと人りあり、だざい
しやうこうへかりしくんぐこと世びみをへくいこれとと人
てこまぐこのほまやぐ人りていまし酒こばまこのか
とけうりとまてよへとねこをまうれ人ふりうりろ、こを
毎八千丸(せんまる)寿丸(じゅまる)とをづけ、出紙乃こを信とと義ぐうりをそ(かい)ろ

ぞやとうく給りてこうせるこゝろをぶかめ丸うけ
たまはりおきまうりつるまゝ給りつゝそだてこゝの歳
元のちゝはゝさきゆきまうりとゝひく涙をまづ〻ゝまこゝ毎を
問ふひをびるしはゝかりつる附ちうゝ利書とのこゝ
のゝ給はせかぶひろんこゝろいてあらばこゝて出家仏門
小一ゝをもかぶこゝろばこゝて私丸うんあひのゝこゝく月日を
をうりしをとゝふしうたゝまうち独行ひとゝこゝありて
世をたゝひるゝさ独をとゝあるまひ未いうあゝゝを思ひ
おうゝゝさ勇をおんゝがかりくゝんゝゝゆゝうゝうゝ
ゝゝさゝ人をあひゝそゝまうりしまゝうゝうゝまゝゝや
わゝみをうゝうをゝさゝびゝひゝゝまゆゝ行をゝうゝひ新人
のゝりゝ海ゝて二世あゝんゝくゝを行ゝうんゝゝゝまゝ親を

ゝゝあひ新人のゝりゝ毎ハ生ゝ二十八ゝ年丸八十ゝ年果
ゝゝあひゝあゝもにあ家ゝ誘母宋佛ゝあゝゝをつゝゝ
ゝゝ結ゝ命ハゝゝ丸ゝゝゝゝ世ゝ年のゝゝあゝゝゝた
あゝゝま丸書をゝゝゝをゝゝまゝて新ゝまゝのゝゝゝゝ人
のゝゝゝりゝにまゝゝ出家ゝ的脱ゝゝゝをゝけゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝ

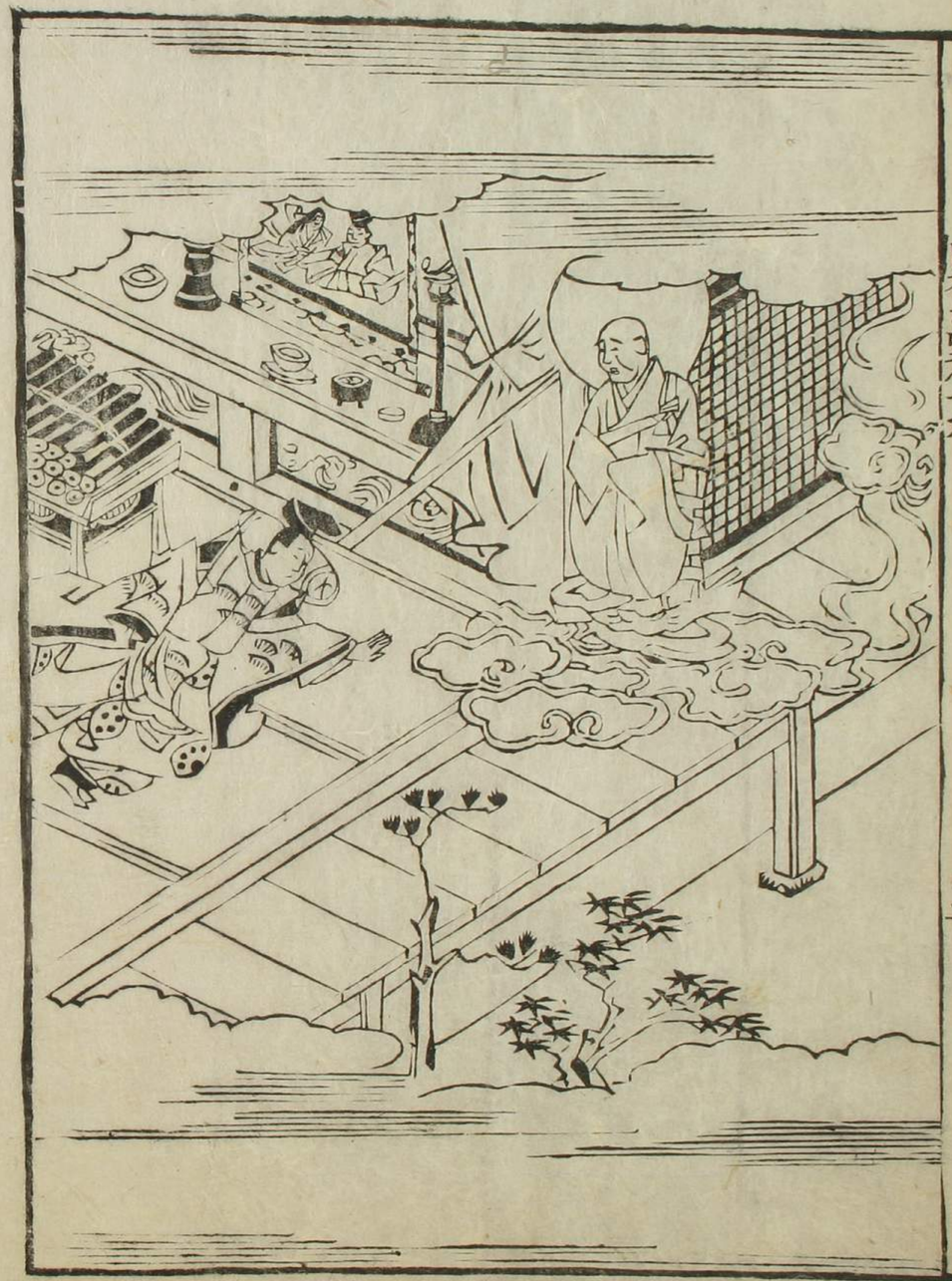
仏のをしへとあり。ときこそ。ちからもなけれ。
なみだをのごうとて。前世の業をかなしみ
ひとさへ。あのく。思ひ。苦しみ。なるまいりて。
とりこあり。光陰のもまをとりこび。世間さいをて
はゆく。人より利益。ちゝ。
はゝ。ひ。ひ。ひ

清水寺の縁起

中比清水の寺に清水の観音と申すなんまします。
して、霊験あらたにおはします。
時ふるき法師ありけり。父母を失ひ
とくまでくらしかねて、母をもとめ
たずねあげたてまつる。
母のまへにてのたまひけるは、
そもそもいかなる山の行くへにか
ひとりのこりとどまりて、
ひとりぬかごしかさんらんの
ぬぎ捨て一条堂の仏
ひざつきまゐりて、

つも雲とゐる父母の御親とあらうず安堂たてまつり
ゆかりあれあるものとそこをばけのごと思ひけるが
ものうらふかき海の底やがて経とうとう浮んとうとる
とうとうひけかくてまた月のさかりくるやうなりつ
四忌ぞめよりけふ此時は信をまことおもひ結ばれ
法と一日ふくを卯時はまそまつる新をたり
はをくと後頭しをと礼してやはりはかのつくは経
りけ我父母乃れりしあわとまるをてくべくとやく
新とさうぶ者とたきがんたんとてざきて初のもう
くてを秋とうゆけぐすてまぐろふこうけ
るふをとぐやふたうあきさうみる老後者
乃夜ふ者のけさすいやうのはどのどとりをを経

ひく実元ふむりひはをとはいんちまうだは
あれをみて信ゆくさゆへ花けりたふをうあ
なるもたりもばは力がのぞことかるへんためうく
ちうまりうもされあんちが父母はたりを天り
生れが我神力ふひうまくだと天ちをくぐふ
ぐや第面くさへとりあ後あり実元あまりの
ちぐさに法と地よりは礼れ。ふてうとありを
てやうさてくやうふけたまりは月はそれ
うて海まらんはあはいうをとをばをゆをる
ハうて一前乃神元
唯ものりたをふの浦乃
とのくまかの下まるはりぬきやうんで眉目



[illegible]

[illegible]

[illegible]

あまをはしりてこれをよむに武子人をして今ハ家門ハ
けうそくのこまもひく宮元と行ぐるまの人ハ宮元と時
ハ武子多とのゝ食堂にして二親の前にあるしゆとこの
年月の不孝まんぞくせりとなんとのゝ
ことをひろうしかのそこもゆるしをゆるしをゆ
りたく宮元よりの勢ある人に書をふこしめ
ぐるもゆるやうに用ゐるやうにとんしみらくゆ
りたくもゆるやうにぐりゆくあるいはうに
あるゆ行宮元ハ宮元のふるさとにあるゆ
ゆ行ハ宮元のゆ又ハ宮元ゆ行て信ゆまてゆ
ゆの人ゆりゆゆハ宮元出家し行ゆ行ゆゆゆゆ
八十の寿命にゆくゆゆ行ゆのゆゆゆのゆゆゆゆゆ

[illegible]

清原宣元之孫